

PALTEK

(証券コード:7587)

2020年12月期 第3四半期 決算説明資料

2020.11.5 (木)

© 2020 PALTEK Corporation. All rights reserved.

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

- ① **2020年12月期 第3四半期
業績結果**
- ② **2020年12月期 業績予想**
- ③ **今後に向けた取り組み**

- ① **2020年12月期 第3四半期
業績結果**

(百万円)	2019年第3四半期		2020年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	22,463	100.0%	21,830	100.0%	△633	△2.8%
売上総利益	2,550	11.4%	2,649	12.1%	98	3.9%
販管費	2,494	11.1%	2,504	11.5%	9	0.4%
営業利益	56	0.2%	144	0.7%	88	157.6%
経常利益	△16	△0.1%	32	0.1%	49	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△42	△0.2%	59	0.3%	101	-
1株当たり四半期純利益	△3.88円	-	5.39円	-	9.27円	-

主な増減要因

- 売上高は、半導体事業が低調に推移したため減少
- 営業利益は、仕入値引ドル建債権の評価額の減少幅が前年同期より縮小したため増加

(百万円)	2019年第3四半期		2020年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半導体	20,390	90.8%	19,849	90.9%	△541	△2.7%
デザインサービス	1,466	6.5%	1,407	6.5%	△58	△4.0%
ソリューション	607	2.7%	573	2.6%	△33	△5.5%
売上高合計	22,463	100.0%	21,830	100.0%	△633	△2.8%

主な増減要因

- 半導体事業は、5Gインフラ向けが堅調であったものの、20Q2よりFPGAビジネスで他代理店への顧客移管によるマイナスの影響などにより減少
- デザインサービス事業は、産業機器向けなどが減少
- ソリューション事業は、紙梱包資材システムおよび空間除菌システムは堅調に推移するものの、乳幼児見守りシステムおよびIoTシステムが低調に推移し減少

■ 売上総利益率の減少は、以下の2つが要因

- ドル円相場の変動により、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額は変動。

売上総利益に対する影響額は、

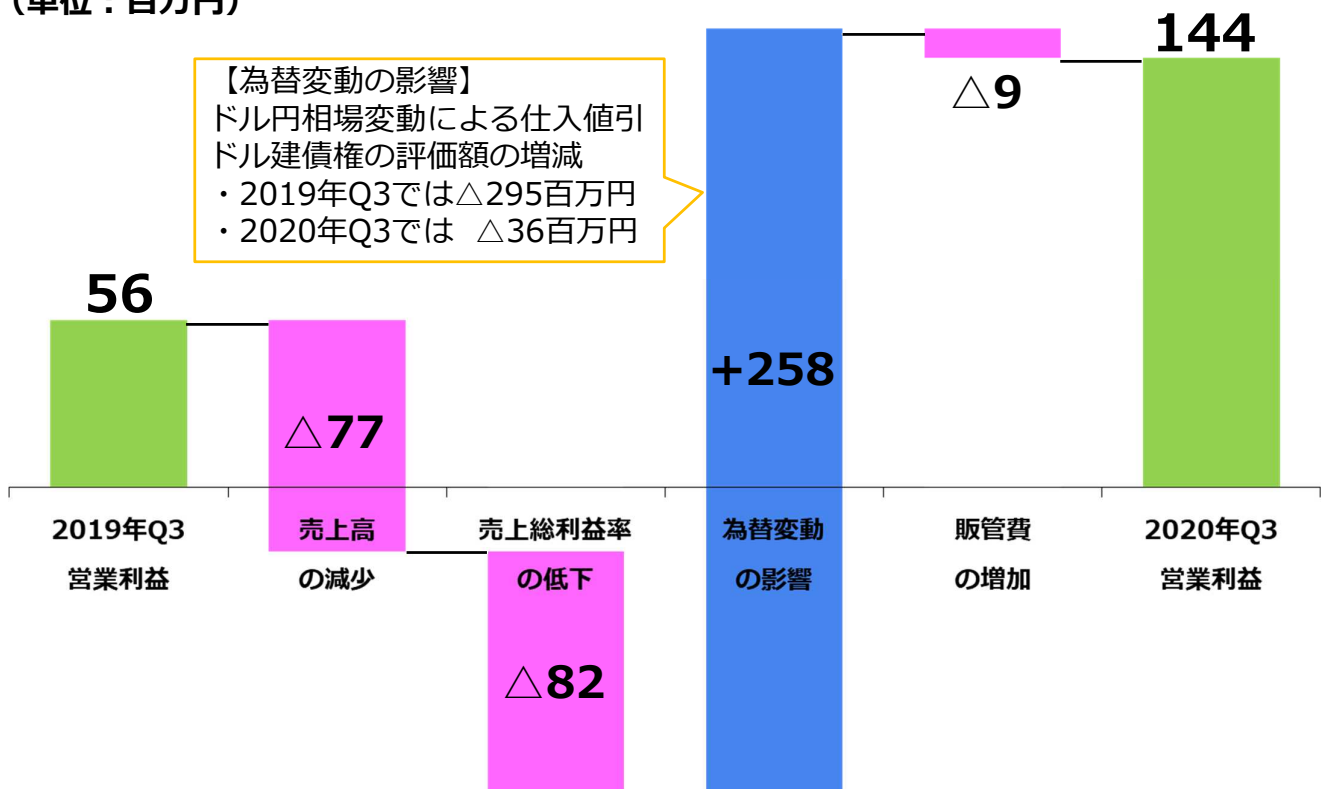
2019年第3四半期では $\Delta 295$ 百万円 ($\Delta 1.3\%$ 分)

2020年第3四半期では $\Delta 36$ 百万円 ($\Delta 0.2\%$ 分)

(百万円)	2019年第3四半期		2020年第3四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売上総利益	2,550	11.4%	2,649	12.1%
(うち為替の影響額)	$\Delta 295$	$\Delta 1.3\%$	$\Delta 36$	$\Delta 0.2\%$
売上総利益 (為替の影響を排除)	2,846	12.7%	2,686	12.3%

- 半導体事業において、海外携帯情報端末向けの売上高が増加したことなどにより利益率が低下

(単位：百万円)

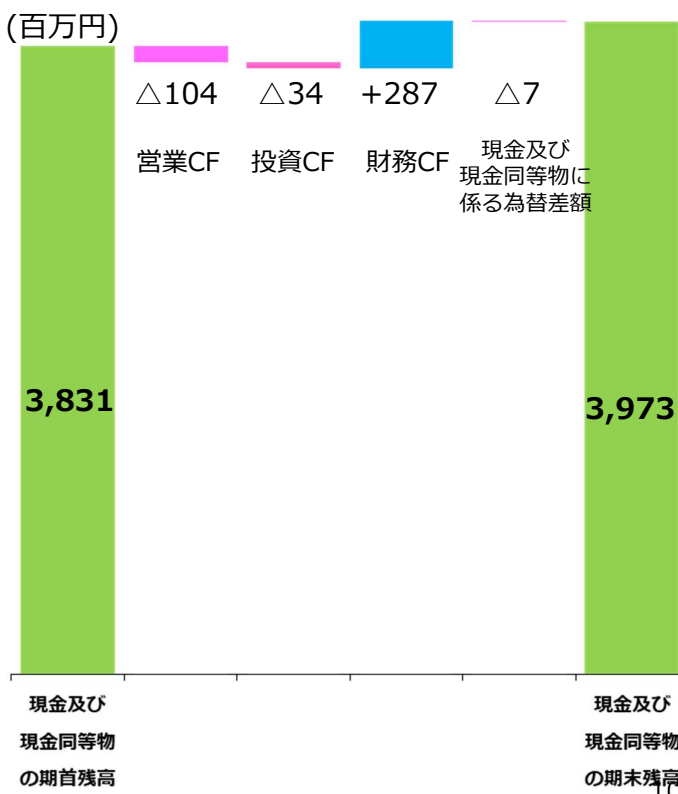


連結貸借対照表の状況

	(百万円)	2019.12	2020.09	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	3,831	3,973	142	
	売上債権	6,589	5,341	△1,248	売上高減少のため
	商品	2,915	3,345	429	
	その他流動資産	2,177	2,554	377	未収消費税等が増加
	固定資産	556	616	60	
資産合計		16,069	15,831	△238	
負債純資産内訳	仕入債務	863	1,005	142	
	短期借入金	3,680	4,080	400	仕入債務および輸入消費税の支払いに充当のため
	その他流動負債	1,775	1,045	△729	未払金が減少
	固定負債	219	222	2	
	純資産	9,531	9,478	△53	
負債・純資産合計		16,069	15,831	△238	

連結キャッシュ・フローの状況

2020年第3四半期のキャッシュフローの動き



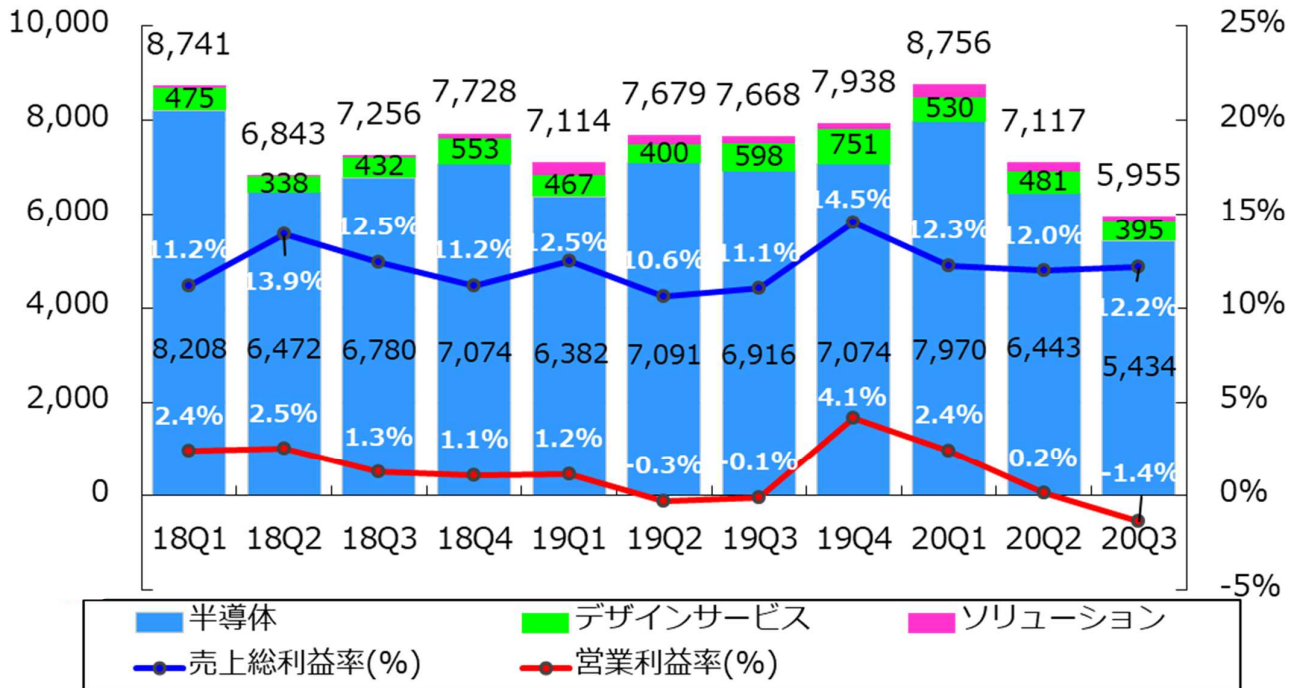
(百万円)	2019年 第3四半期	2020年 第3四半期
現金及び現金同等物の期首残高	2,024	3,831
営業CF	44	△104
投資CF	△50	△34
財務CF	757	287
現金及び現金同等物の期末残高	2,791	3,973

2020年第3四半期キャッシュフローの動き

- 【営業CF】 売上債権が減少した一方、たな卸資産および未収消費税等の増加などにより支出
- 【投資CF】 有形固定資産および無形固定資産の取得などにより支出
- 【財務CF】 配当金の支払いを実施した一方で、短期借入れの実施などにより収入

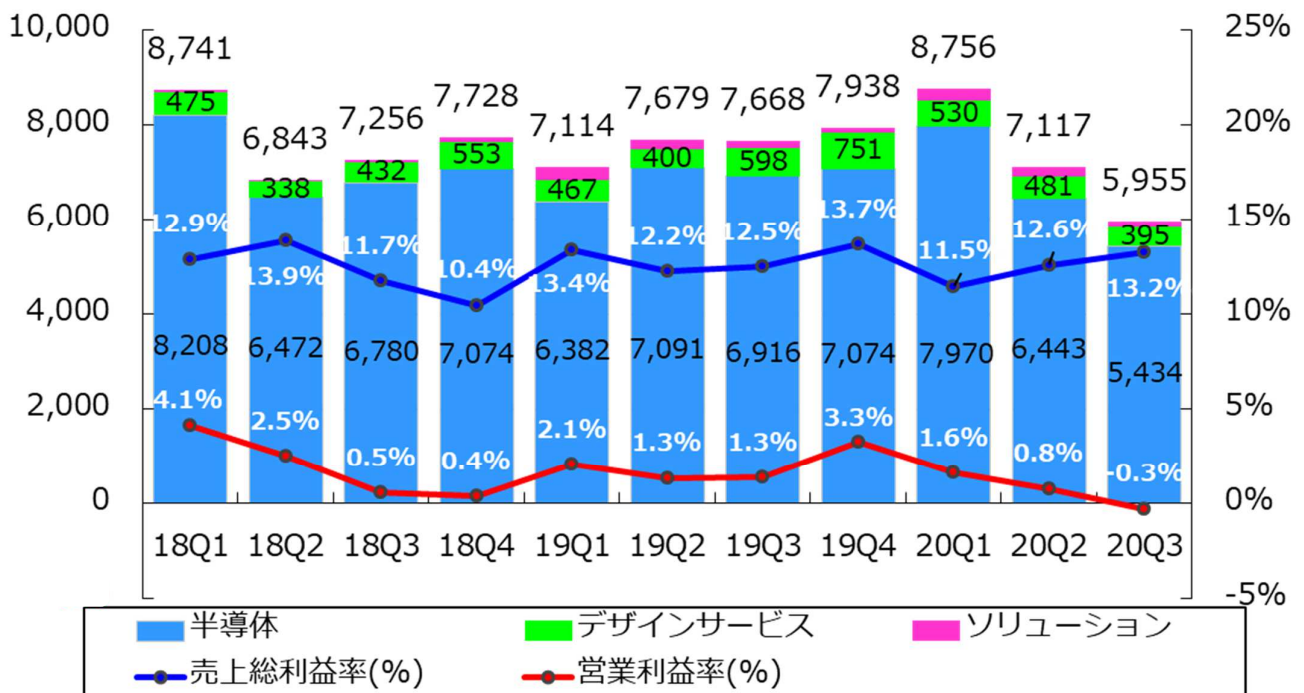
連結業績の四半期推移

(百万円)



連結業績の四半期推移 (為替の影響を除いた場合)

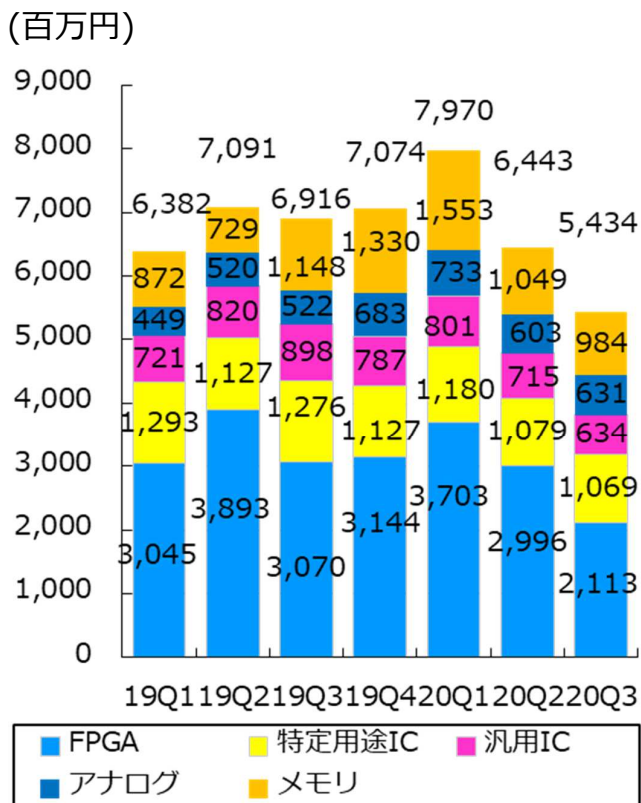
(百万円)



事業別の実績

© 2020 PALTEK Corporation. All rights reserved.

半導体事業の状況（製品別）

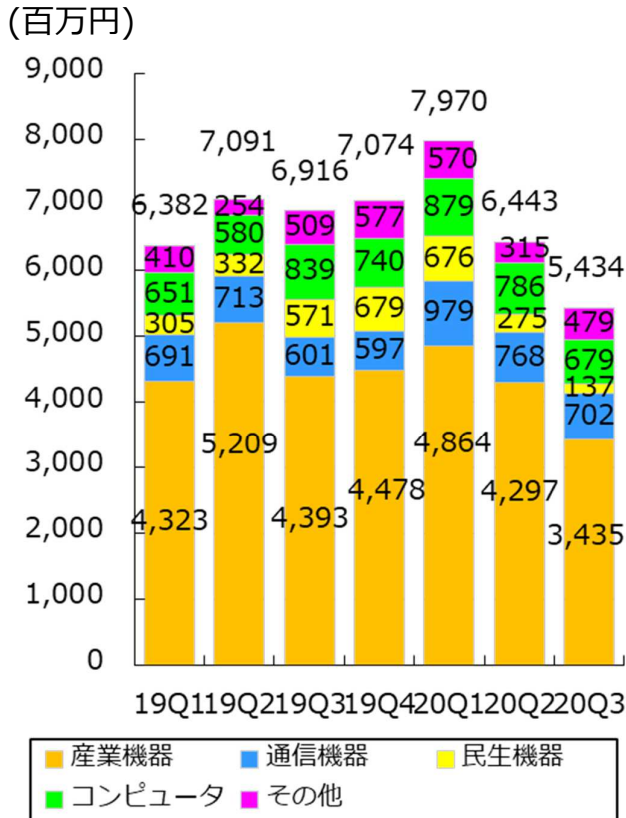


業績の推移

前四半期からの推移について

- FPGA
通信機器向けは増加するも、医療機器、計測機器、放送機器、ファクトリーオートメーション向けなどが減少
- 特定用途IC
通信機器向けが増加するも、PC向けなどが減少
- 汎用IC
放送機器向けなどが減少
- アナログ
産業機器向けが増加
- メモリ
海外携帯情報端末向けが減少

半導体事業の状況 (用途別)

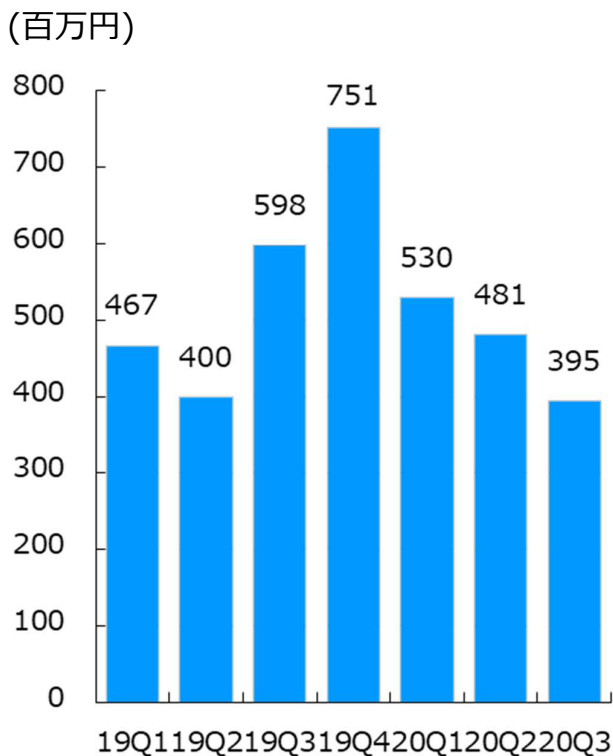


業績の推移

前四半期からの推移について

- 産業機器
医療機器、計測機器、放送機器、ファクトリーオートメーション向けなどが減少
- 通信機器
ブロードバンド通信機器向けが減少
- 民生機器
海外携帯情報端末向けが減少
- コンピュータ
PC向けが減少

デザインサービス事業の状況

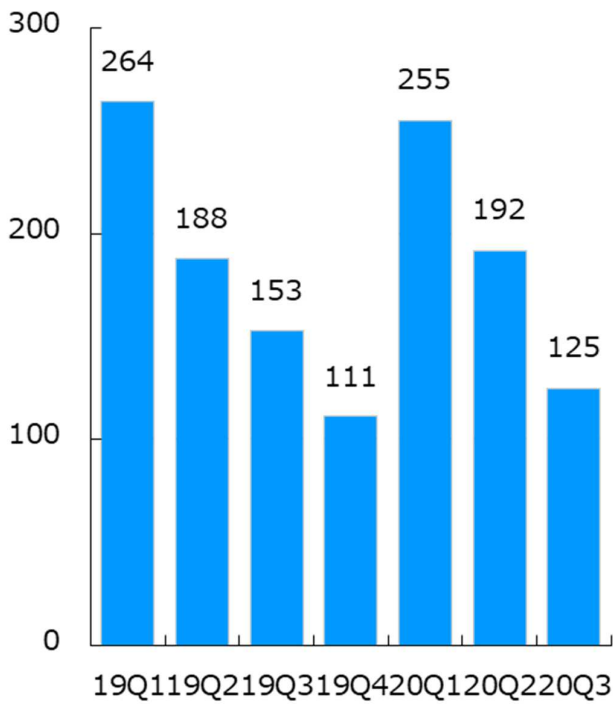


業績の推移

前四半期からの推移について

- 医療機器、通信機器向けが減少
- コロナウイルス感染症の影響でお客様での開発案件の延期や外部への委託の縮小などが影響

(百万円)



業績の推移

前四半期からの推移について

- 紙梱包資材システムは堅調に推移するものの、映像配信システムおよびタイヤ空気圧監視システムなどが減少

2

2020年12月期 業績予想

Q3実績およびQ4見通しを勘案し 通期業績予想を下方修正

■ 売上高の減少要因

- ・ 半導体事業：事務機器や放送機器、産業用PC向けなどが低調に推移
- ・ デザインサービス事業：産業機器向けの設計受託案件が低調に推移、および放送関連のODM案件が延期

■ 営業利益の減少要因

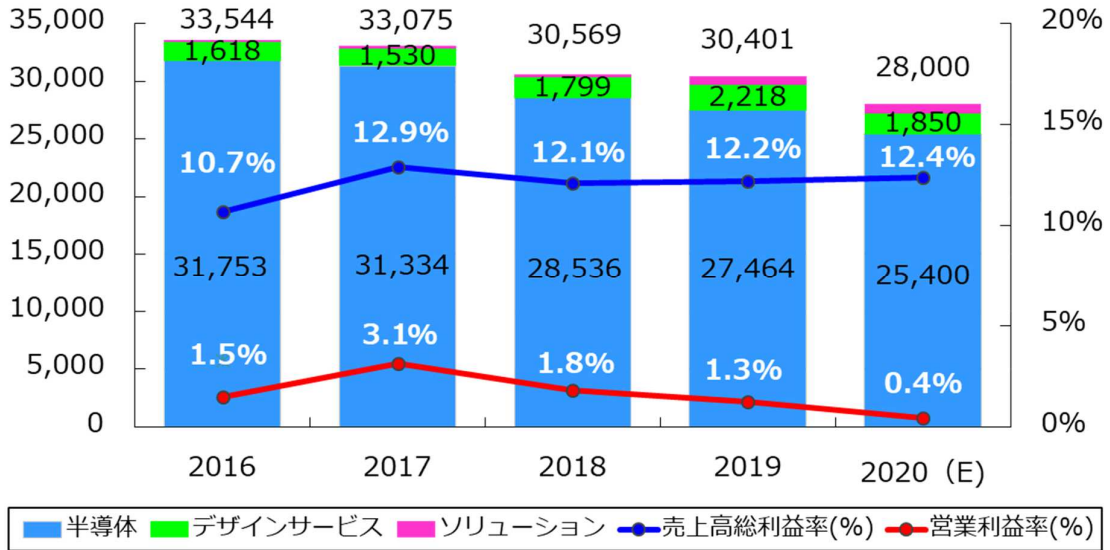
- ・ 売上高の減少に伴い売上総利益が減少
- ・ 仕入値引ドル建債権の評価額が現時点の為替レートにおいてマイナスとなる見込み

■ 経常利益の減少要因

- ・ 営業利益の減少
- ・ 為替差損や支払手数料などの発生により営業外費用が増加

(百万円)	2020年12月期 前回予想 (2020/8/5時点)			2020年12月期 今回予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	15,874	13,625	29,500	15,874	12,125	28,000	△1,500	△5.1%
売上総利益	1,925	2,024	3,950	1,925	1,544	3,470	△480	△12.2%
売上総利益率	12.1%	14.9%	13.4%	12.1%	12.7%	12.4%	-	-
販管費	1,699	1,950	3,650	1,699	1,650	3,350	△300	△8.2%
営業利益	225	74	300	225	△105	120	△180	△60.0%
営業利益率	1.4%	0.5%	1.0%	1.4%	△0.9%	0.4%	-	-
経常利益	153	66	220	153	△153	0	△220	△100.0%
当期純利益	143	6	150	143	△83	60	△90	△60.0%

(百万円)



- 売上高 : コロナウイルス感染症などによる量産立ち上がりの遅れや開発の延期などにより、半導体事業、デザインサービス事業が減少
- 売上総利益率 : 利益率の低い半導体ビジネスの売上高が減少するため上昇
- 営業利益率 : 売上高の減少により販管費率が上昇するため、営業利益率は低下

■ 半導体事業で想定される影響

- ・ ファクトリーオートメーション : 顧客の事業環境により異なるが、総じて設備投資に対し慎重な動き
- ・ 医療機器 : 医療機関での投資状況に影響を受ける可能性あり
- ・ 通信機器 : 5Gインフラ向けは堅調
- ・ 放送機器 : 設備投資が大幅に減少
- ・ 計測機器 : 通信向けは直近では一段落
- ・ 事務機器 : 先行き不透明

■ デザインサービス事業で想定される影響

- ・ 開発案件への投資は減少傾向が継続

■ ソリューション事業で想定される影響

- ・ 営業活動は徐々に戻りつつあるものの、お客様の投資判断は慎重姿勢が継続

■ 新規ビジネスへの投資は継続

3

今後に向けた取り組み

PALTEKの方向性

■ 経営方針

- ・ ソリューションサプライヤーとして社会的意義ある価値を創出し、ニーズとシーズを照らし合わせた、付加価値の高い製品提案、ソリューションの開発・販売
- ・ 収益性の高い経営を目指す

■ 各事業の方向性

ソリューション事業

基軸事業を活用し、市場ニーズに合ったソリューションを提供する事業

デザインサービス事業

半導体事業で積み重ねた強味を活かし、常に新しい技術を活用した開発力と設計品質の向上に努め、付加価値を高める事業

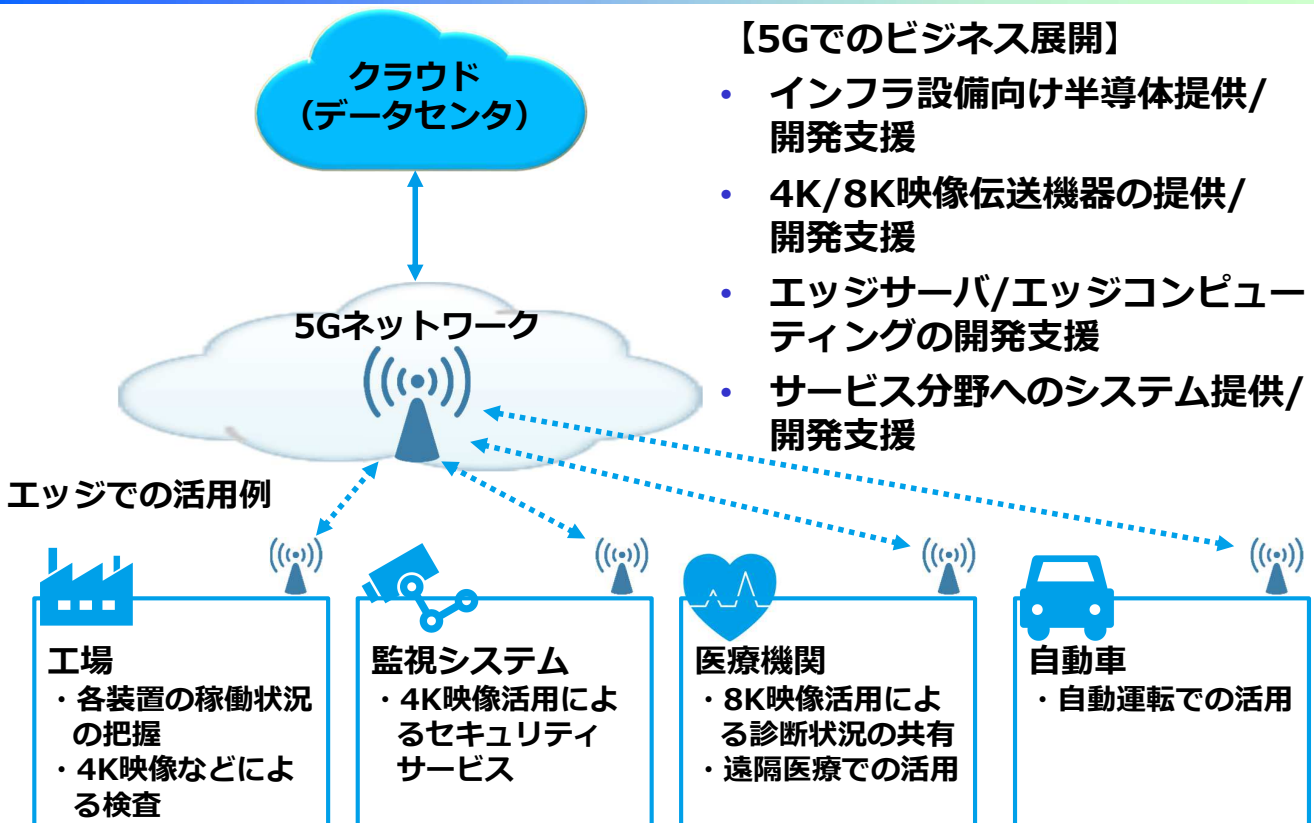
半導体事業

成長市場に注力し、安定的に収益を上げていく基盤事業

5Gが社会のインフラとなり、さまざまなサービスが展開される



- 自動運転
- 遠隔医療
- 工場などの遠隔監視・制御
- 無人店舗
- VRなどによるリアルな視聴体験
- スマート農業
- 高度なセキュリティシステム
- 教育現場での活用



【5Gでのビジネス展開】

- インフラ設備向け半導体提供/開発支援
- 4K/8K映像伝送機器の提供/開発支援
- エッジサーバ/エッジコンピューティングの開発支援
- サービス分野へのシステム提供/開発支援

■ 5Gのネットワーク機器関連

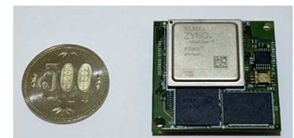
- 基地局向けに半導体の販売
- 5G関連の計測機器向けに半導体の販売

■ エッジコンピューティング開発支援

- FPGAコンピューティングプラットフォーム「M-KUBOS」の開発
 - エッジコンピューティングの高速化
- FPGAエッジコンピューティング「So-Oneモジュール」の開発
 - 小型端末における高速処理を実現可能
- 受託開発やODMの獲得



M-KUBOS



So-Oneモジュール

【背景】

- 5Gの「超低遅延・多接続」という特長は自動運転では必須
- 5G時代の到来により、モビリティの開発は複雑性を増し、各機能連携の検証などに膨大な時間を要する

■ モデルベース開発の検証高速化のための自社製品



車両運動/EVプラントモデル内蔵
リアルタイムシミュレータ
「白虎」

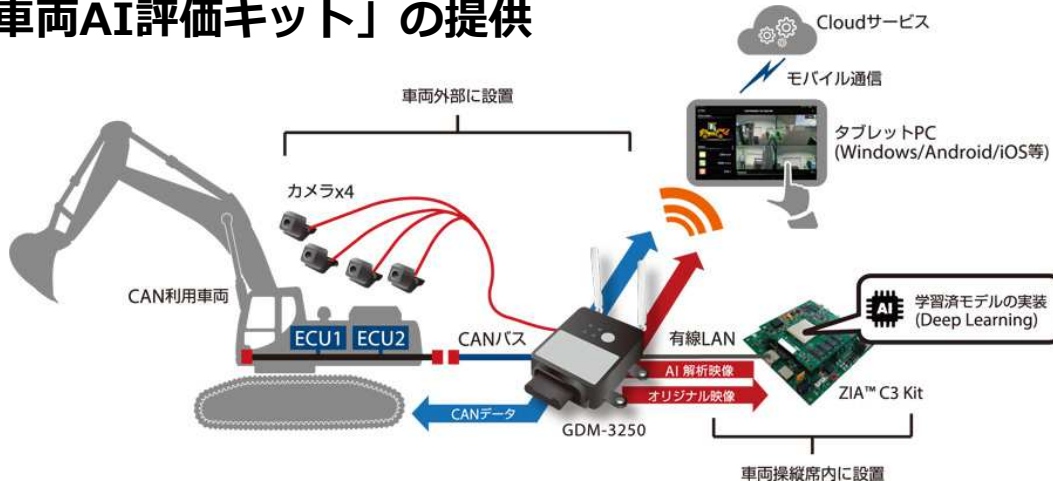


プラントモデルを自由に実装可能
高速演算リアルタイムシミュレータ
「MODEL CUBE」

【背景】

- AI, IoTを組み込み、農機・建機・搬送ロボット自動化を促進
- サイレックテクノロジー、DMPと協業し機器開発を支援

■ 農機・建機・搬送ロボット向け遠隔・自動化ソリューション「車両AI評価キット」の提供



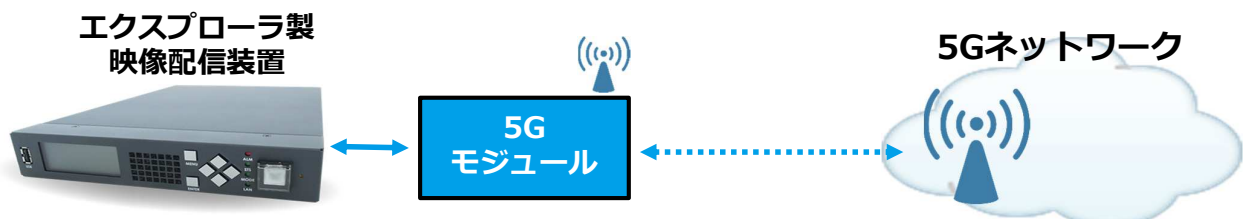
reserved.

【背景】

- 5G普及により、4K/8K高精細画像・映像伝送の本格活用が進む

■ 映像配信システムの提供

- 航空/宇宙、医療、放送、セキュリティ分野などへ展開
- 用途に合わせ、Haivision社製品、エクスプローラ製品を提案



当社は既存事業に加えて、
環境、労働環境の改善、健康
などの社会課題を解決する
ビジネスを展開



■ 当社が展開するソーシャルビジネス

- 【海洋汚染・脱プラ対策】紙梱包資材システムの提供
- 【感染症対策】空間除菌システムの提供
- 【女性の社会進出支援】乳幼児見守りシステムの提供
- 【労働環境改善】作業支援ウェアラブルロボットの提供

■ 【海洋汚染・脱プラ対策】紙梱包資材システムの提供

- 「第8回次世代EC&店舗 EXPO【秋】」(10/28~30)に出展し、
新規顧客の開拓を再開

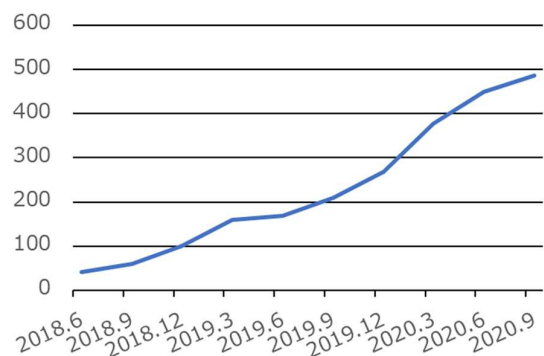
2020
Japan IT Week 秋 毎週メッセ 内

第8回 次世代EC&店舗EXPO 秋

- コロナ禍においても、
梱包用機器の導入件数は順調に増加



梱包用機器導入件数(累計)の推移



■ 【感染症対策】 空間除菌システムの提供

- 新型コロナウイルスの発生により、感染症対策は季節での対策から通年対策へ
- 感染症予防として空間に浮遊する細菌やウイルスの不活化が可能な空間除菌システムを提供
- 提供するお客様
 - クラスター防ぐ : 介護施設、保育園
 - 医療従事者を守る : 病院
 - 日常の安心を : 店舗、企業、etc...
- 稼働事例
 - 聖マリアンナ医科大学病院
 - 藤田医科大学病院
 - トヨタ記念病院
 - トヨタ西東京カローラ株式会社 他100社以上



亜塩素酸水
「クロラス除菌
ウォーター」

空間除菌デバイス
「Devirus AC」

■ コロナウイルスの影響で、新規事業立ち上げは全体的に遅延

【デザインサービス】	進捗状況	今後の取り組み
ODMビジネスの強化	顧客開発案件の遅延・減少	案件開拓、自社製品プロモーション
モビリティ開発支援	開発支援自社製品の開発	新規顧客開拓 自社製品開発
【AI/IoT】		
IoTソリューション	案件は一時的にストップも回復傾向	既存顧客での案件開拓 新規顧客開拓
AIソリューション	パートナーとの連携強化 自社製品開発	新規顧客開拓
【映像システム】		
ビデオソリューション	提案の横展開実施 新規顧客開拓は遅延	新規顧客開拓 自社製品開発
【ソーシャルビジネス】		
紙梱包資材ビジネス	既知顧客への提案 新規顧客開拓は遅延	既知顧客への提案継続 新規顧客開拓
空間除菌システム	新規顧客開拓	新規顧客開拓
乳幼児見守りシステム	回復傾向	新規顧客開拓

参 考 資 料

© 2020 PALTEK Corporation. All rights reserved.



為替変動に関する影響

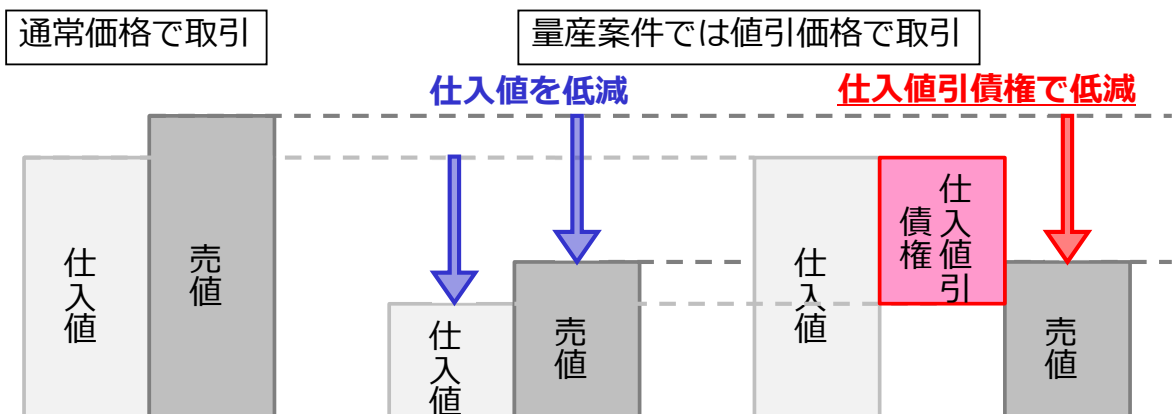
■ 為替変動により当社グループの利益は以下の4点で影響を受ける

- ① 仕入値引ドル建債権の為替変動による影響
- ② 調達在庫の為替変動による影響
- ③ 決済時のドル調達レート変動による影響
- ④ ドル建売掛金入金時のレート変動による影響

為替変動による影響の発生要因①

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

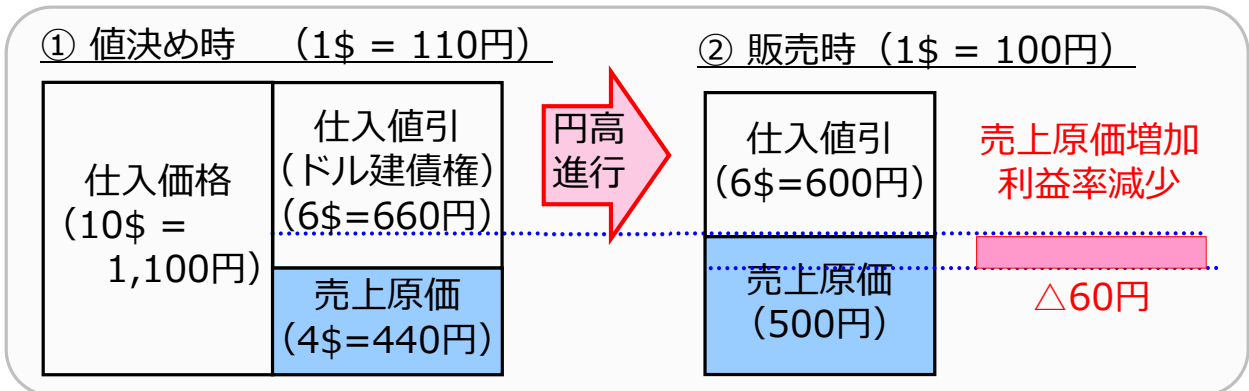
- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
 - ・ 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
 - ・ その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
 - ・ その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」



急速な円高進行による仕入値引債権の評価額減少

- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きくなるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化

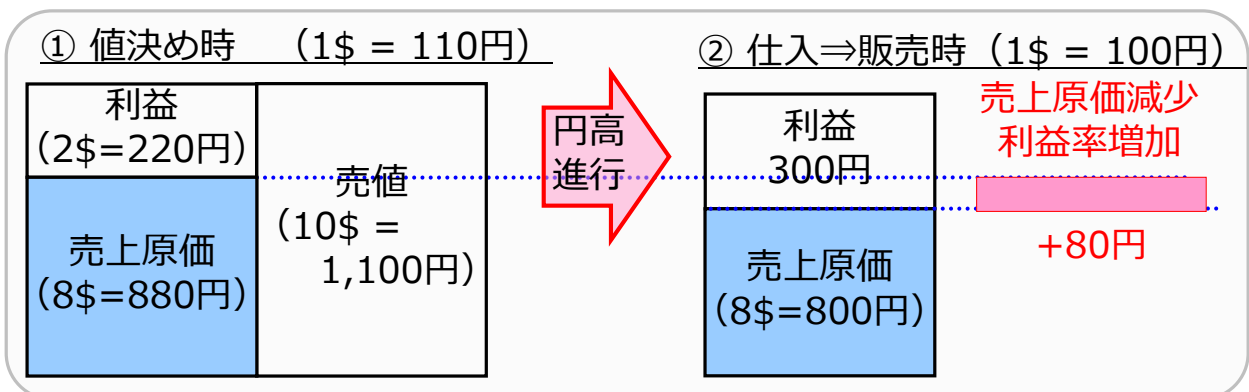


為替変動による影響の発生要因②

【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化

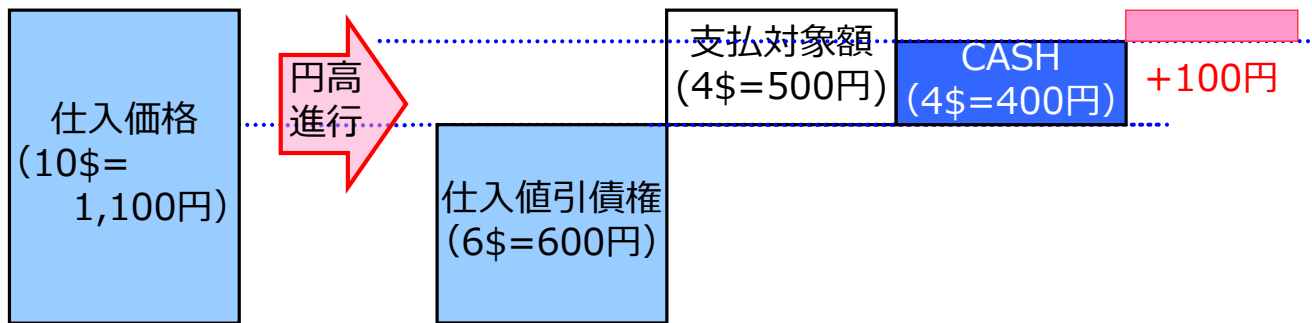


為替変動による影響の発生要因③

【決済時のドル調達レート変動による影響】

- 支払を行う際に円高に進行していた場合、ドルを調達する金額が少なくなるため、決済差額が生まれ、為替差益を計上することとなる
- 一方、円安に進行した場合は、為替差損を計上することとなる

① 仕入時 (1\$ = 110円) ② 販売・支払時 (1\$ = 100円)



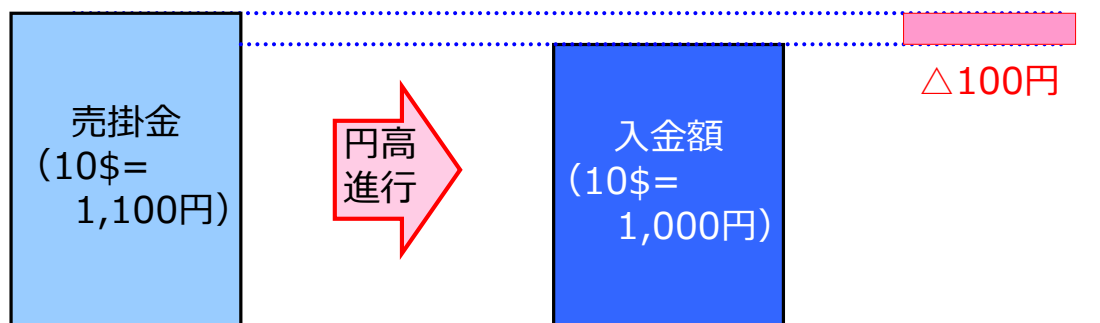
為替変動による影響の発生要因④

【ドル建売掛金入金時のレート変動による影響】

- ドル建売掛金の入金がある場合には、円高に進行するとマイナス、円安に進行するとプラスの影響が発生する（営業外の為替差損益）
- 当社はこのリスクを限定的にするために、為替予約を行っている

① 販売時 (1\$ = 110円)

② 入金時 (1\$ = 100円)



■ 売上総利益への影響額

- Q3における評価レートは緩やかに円高方向で推移したため、為替変動の影響額はマイナス方向に

(単位：百万円)	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3
為替レートの変動（円）	108→ 110	110→ (112)→ 107	108→ (106)→ 108	108→ (109)→ 108	108→(112) →101→ 111)→108	108→ (109)→ 107	107→ (104)→ 105
為替変動の影響（売上総利益）	-63	-124	-108	69	70	-43	-64
仕入値引債権の評価額変動の影響	-396	60	-542	241	198	-503	-475
調達在庫の為替レート変動の影響	333	-183	434	-172	-127	459	412

■ 営業外損益への影響額（期末評価替の影響は含まず）

- 買掛金支払時のレート変動の影響は+13百万円

(単位：百万円)	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3
買掛金支払時のレート変動の影響 (営業外)	-15	122	64	-98	-26	19	13

- 売掛金受取時のレート変動の影響額は△37百万円

(単位：百万円)	19Q1	19Q2	19Q3	19Q4	20Q1	20Q2	20Q3
売掛金受取時のレート変動の影響 (営業外)	-42	-49	-61	-3	-20	9	-37

(百万円)	2019年12月期 実績			2020年12月期 業績予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	13,473	13,991	27,464	14,414	10,985	25,400	△2,064	△7.5%
FPGA	6,938	6,215	13,154	6,699	4,400	11,100	△2,054	△15.6%
特定用途IC	2,421	2,404	4,825	2,259	2,340	4,600	△225	△4.7%
汎用IC	1,542	1,686	3,228	1,516	1,083	2,600	△628	△19.5%
アナログ	969	1,206	2,175	1,336	1,263	2,600	424	19.5%
メモリ	1,601	2,479	4,081	2,602	1,897	4,500	418	10.3%
デザインサービス	867	1,350	2,218	1,012	837	1,850	△368	△16.6%
ソリューション	453	265	718	447	302	750	31	4.3%
売上高合計	14,794	15,607	30,401	15,874	12,125	28,000	△2,402	△7.9%
営業利益	61	322	384	225	△105	120	△264	△68.8%

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例：通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	アナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM
ソリューション事業	最終製品レベルでのソリューション提案を実施 自社製品（ハードウェア、ソフトウェア、システム）の 開発・販売

以下の担当までお問い合わせ下さい。

株式会社PALTEK

柴崎 由記 (IR担当)

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL : 045-477-2016

FAX : 045-477-2012

E-mail : ir@paltek.co.jp